

道新出前講座ヒントに壁新聞に挑戦

小さな学校の個性伝えたい

壁新聞作りのアドバイスのため、月末に訪問した別海町上春別中(25人、田中彰校長)から「もう一度、来てほしい」とうれしいうえに、5日に6人が学ぶ3年生の教室を訪ねた。前回「壁新聞は苦手」と言っていた生徒らが、動きだしてくれた。(佐竹直子)

別海町上春別中3年生

今回は、北海道新聞社と釧路地方道新会が企画する「かべ新聞出前講座」として、授業3コマ分の時間を頂いた。このクラスは、1年生の時に制作した壁新聞の仕上がりに自信が持てず、昨年は制作を断念。今年は、2月の記者の講座をヒントに、「中学校かべ新聞コンクール道東大会」への挑戦を決意してくれたというのだ。

前回は「何を書いたらいいかわからない」と言っていた生徒たちが、今回は記事の構想を練って待っていてくれた。古田真生さんが説明してくれた題材の一つは「三つのN」。

上春別中では1995年に制服、校則、チャイムを廃止した。しかし、今は制服などを「必要」と考える在校生も少なくない。2年前の新聞でも取り上げたが、今回は卒業生や他校も取材しており、吉田樹里さんは「廃止の経緯も振り返り、より深く意見を考え直したい」と話した。

まずは「紙面会議」を開催。154・31・2719へ。



2度目の訪問となった上春別中の3年生6人と記者



取材したこと、調べたいことをメモに書き出した紙面会議。みんな真剣だ。

制服廃止など紙面会議で構想練る